

大沢幸弘著「心が自由になる働き方」かんき出版 2014年9月1日刊を読む

ひた向きさは常に共感を呼ぶ

1. 斜に構えた人と、ひた向きな人——あなたはどちらが好きですか。
やる気のない人と、ひた向きな人——あなたはどちらについていきますか。
2. ひた向きさは常に、人の共感を呼びます。
何かに一途に打ち込んでいる姿。
一所懸命に取り組む姿。
人はそういう姿を好ましいと感じるようにできているのです。
3. そういう人を見ると、思わず微笑んだり感心したり、興味を持ったり共感したり、応援したくなってしまふ。時には可愛らしくさえ、見えることがあります。一流の人が一所懸命に打ち込んでいる姿を見ると、身が引き締まる思いがします。
これはすべて共感・感動のなせる業なのです。
4. ひた向きな姿は、周囲を応援の気持ちにさせる。
一途な取り組みは、なかなか邪魔できない。
一所懸命に生きている人は、知らず知らずのうちに、他人が応援団になる。
5. 成功するか失敗するかは関係ない。大きな仕事か小さな仕事かは関係ない。
ひた向きに取り組む共感を呼ぶ人は、それだけで自分自身が幸せな人生を歩んでいるのです。
6. **これから、ますます勢いづく人に！**
文化の異なる米国企業に働き、米国、アジア、欧州を頻繁に訪ねていると、否が応でも「世界の中の日本」が見えてきます。
とくに最近強く感じていることが三つあります。
(1)一つ目は、世界や日本で活躍する人たちの顔ぶれに変化が出てきました。
世界では、中国・韓国・台湾・インド・日本の人たちが大いに活躍するようになってきました。
日本では、外資経験者や国際経験豊かな人たちが、国際化する日本企業のトップや中核を担うようになりつつあります。
(2)二つ目は、世界がいくら進歩しても、天災・戦争・経済恐慌をコントロールする方法を、人類が未だ手に入れていないことです。どこかの海水温のわずかな上下が異常気象や天災をもたらす

たり、偶発的な事故が戦争のきっかけになったり、一つの国の経済危機が世界へと連鎖したりするのは。相互連関かつ動的な複雑系に、私たちが生きていることを、より強く意識させられるようになりました。

(3)三つ目は、日本の将来が十分に明るいということです。中国に GDP を抜かれたといっても、日本は世界 3 位の経済大国です。安全・安心・信頼の日本ブランドに磨きをかけ続ければ、プライスレスな価値を提供する貴重な国でいられます。2020 年の東京オリンピック・パラリンピックとリニア新幹線建設だけに依存してはなりません。長寿社会と地球環境に最初にもっとも悩んだ国として、その関連ビジネスで世界をリードしてゆくのが本筋です。

7. 「今は国内で、日本人相手に仕事をしているだけだから、自分には関係ない？」と思っている人がいるかもしれませんが、そんなことはありません。

好むと好まざるとに拘わらず、ビジネス面での国境はどんどん低くなり、明治維新で国境(県境)がなくなったようになってゆくでしょう。ドメスティックな産業でさえ、世界の人々を相手にする機会がどんどん増えてきました。

P200 ~ P204

[コメント]

日本の総合商社で 26 年働き、メキシコや米国にも住み、さまざまな国でビジネスに取り組んできた大沢幸弘氏の本書「心が自由になる働き方」は、これからの生き方、働き方を真正面から考える人にとって最良のテキスト。是非、御一読を。

— 2014 年 10 月 14 日 林 明夫記 —